

OPENWAY FT NonStop Kernel 版 (Ver3.2 Rev80) リリースノート

OPENWAY FT NonStop Kernel 版 (Ver3.2 Rev80) では、Ver3.2Rev70 に対して以下の仕様変更・改善、および不具合対応を行っています。

《仕様変更・改善》

【1】 EMS ログのファシリティ名変更機能の追加

EMS ログのファシリティ名はこれまで LOCAL1 に固定されておりましたが、以下の環境変数を新設し、LOCAL0～LOCAL7 のいずれかに変更できるように改善いたしました。

TOOLS_SYSLOG_OUT

【2】 仕掛け処理の自動再開機能の改善

仕掛け処理の自動再開機能(uftpdwn)にて、自動再開されるべきステータスで自動リカバリの設定「無」、相手マシン状態「DEAD」の場合にも処理が再開されるよう改善いたしました。

【3】 相手ホスト DEAD 状態時のログ改善及びエラーメッセージ

ソケット通信時、既に相手ホスト状態が「DEAD」であった場合、エラーの詳細メッセージとして「Already_DEAD」を出力しておりますが、ステータス更新時にも処理が停止した状況が分かるよう以下の警告メッセージを出力するよう改善いたしました。

Warning!! Host status already_DEAD (Host=相手ホスト名)

【4】 FTP メッセージファイルおよび FTP 結果ログの入出力異常発生時の詳細エラー追加

FTP 結果チェックにおいて、FTP メッセージファイルの読み込み異常および FTP 結果ログファイル書き込みエラーが発生した場合に、内部(システム)エラーを取得し、エラーログに出力するよう改善いたしました。

【5】 FTP 結果判定にてメッセージファイル入出力異常が発生する問題の低減

FTP 結果判定時に u@ftpjenv コマンドを同時に実行すると以下のエラーが発生することがありますが、内部処理の改善を実施し、発生確率を大幅に低減いたしました。

0125E FTP メッセージファイル入出力異常!! :

【6】 処理状況取得コマンドの戻り値変更

本来ステータス 05 は Abend、DEAD 状態にはならないステータスにもかかわらず、ファイル識別実行中にステータスを 05 に変更した場合、処理状況取得コマンド(u@ftpspd -chk)の戻り値では異常と判定していましたが、正常と判定するよう変更しました。

【7】 進捗ログの改善

ログファイルの先頭に OPENWAY FT のバージョン、OS 種類を示すヘッダー情報を出力するよう改善いたしました。これによりログ内容から実際に動作しているバージョンの確認が容易になりました。

【8】 ログ削除対象の絞込み方法変更

ログ削除時に、今までは英数字8字のファイル名(拡張子を除く)を削除対象としておりましたが、数字8字のファイル名を削除対象とするように見直しました。

【9】 自動リカバリ停止情報クリア処理の追加

自動リカバリ処理が実行中に T@rcv(自動リカバリ停止)コマンドを用いて自動リカバリの停止を行った後、何らかの要因によって自動リカバリ処理が強制終了すると、次回自動リカバリの起動が実施されないケースがございました。自動リカバリ起動時に停止情報をクリアすることで、強制終了した場合でも自動リカバリが起動されるように改善しました。

【10】 TCP/IPv6 サブシステム使用時の自動リカバリ対象の追加

TCP/IPv6 サブシステム使用時に、サーバプロセスとなりうるプロセス(FTP クライアントのデータセッション等)がエフェメラルポートを使用する際、OPENWAY FT のソケットサーバと、ポートバッティングする恐れがあることが確認されております。このため、ポートバッティング発生時に自動リカバリされるように指示する環境変数を追加いたしました。

TOOLS_TCPV6_RECOVERY

《不具合対応》**【1】 文字コード変換、圧縮・拡張ユーティリティの不具合**

- ・ 文字コード変換、圧縮 :
入力ファイルのオープン失敗時に、0 バイトの出力ファイルができてしまう不具合を修正いたしました。
- ・ 文字コード変換 :
フリーフォーマット変換にて、KEIS 文字コードのシフトコードを改行コードと誤認する不具合を修正いたしました。

- ・ 圧縮・拡張 :
扱える最大レコードサイズ「32768」を入出力できるよう、入出力バッファサイズの不具合を修正いたしました。

【2】 コード変換ユーティリティの不具合対応

コード変換ユーティリティ(uconvuth)にて、フリーフォーマット変換時、最終行に改行コードが存在しない場合、コード変換後のデータが不正になることがある不具合を修正いたしました。(最終行に改行コードが存在する場合は、当不具合は発生しません。)

【3】 コード変換実行結果リストの出力項目の修正

コード変換時に出力される詳細実行結果リストの項目に、オプション表記もれや表記判定ミスがあったため、全オプション、設定ファイル名、設定内容が出力されるよう実行結果リストの見直しをいたしました。

具体的な修正内容は以下のとおりです。

- ・ 以下のオプション表記もれについて、表示するよう修正しました。
 - ・ エラー出力最大行数
 - ・ 先頭(末尾)空白文字削除指定
 - ・ 符号オプション(-spac_pf, -pac_f, -szone_pf)
- ・ 外部特殊変換の使用(Special convert)の判定に1バイト文字特殊変換の有無が考慮されていなかった不具合を修正いたしました。
- ・ SJIS⇔EUC 変換において-resmax(エラー出力最大行数指定)を指定すると、オプションエラーとなる不具合を修正しました。またエラー出力最大行数(Convert error list max)が出力されるよう修正いたしました。
- ・ 外部特殊変換情報の出力では一律で「HOST ⇔UNIX(NT)」が出力される誤りを以下のように修正しました。

対ホスト文字コード変換: HOST⇔UNIX(Windows)

SJIS→EUC : SJIS⇔EUC

EUC→SJIS : EUC⇔SJIS

- ・ 全表記の先頭文字を大文字に統一し、誤字も修正しました。

【4】 ジョブ起動モジュールでファイル識別情報の書込み異常時にエラー停止しない不具合

ジョブ起動モジュール(uftpjobs)にて、ファイル識別情報の書込み異常発生時にエラー停止せず、処理が進捗する不具合を修正しました。

《機能削除》

【1】 管理ファイル(副)に関する機能の削除

管理ファイル(副)はファイル識別情報のバックアップを目的に作成しておりましたが、管理ファイル(副)からファイル識別情報を復元することがないため、管理ファイル(副)に関する以下の機能の提供を終了いたしました。

- ・ ファイル識別情報の項目「管理ファイル(副)」を登録／変更／参照する機能
- ・ 管理ファイル(副)の作成／更新／削除機能

管理ファイル(副)に関する処理が実行されないだけで、他への影響はございません。
既存の管理ファイル(副)ファイルは更新されなくなります。